

国立大学法人大阪大学総長選考・監察会議（令和6年度第1回）議事録

日 時 令和6年6月7日（金）13時00分～14時30分

場 所 大阪大学中之島センター

出席者 （経営協議会選出委員）

金倉委員、黒田委員、塚本委員、蓮輪委員、藤井委員、村木委員
（教育研究評議会選出委員）

大政委員、熊ノ郷委員、栗原委員、敦賀委員、中野委員、深川委員

議 題

1. 総長選考・監察会議議長の選出について

事務局から、総長選考・監察会議議長の選出について説明があり、審議の結果、村木委員を議長として選出した。

議長から、総長選考・監察会議規程第4条第3項の規定に基づき、議長の代理者として熊ノ郷委員を指名する旨発言があった。

2. 総長選考スケジュールについて

総長選考スケジュールについて説明があった。

3. 「求められる総長像」について

事務局から、「求められる総長像」について説明があり、種々意見交換を行い、後日書面により各委員の意見を集約したうえで、次回会議において審議することとした。

上記の審議過程における各委員からの意見は次のとおり。

- ・大学が推進してきた事業を継承することを「求められる総長像」に記載することは重要ではあるが、経営方針を継承することまで記載する必要はないのではないか。
- ・次代のリーダーを育成していくことが重要であることから、大学が推進してきた事業や経営方針を継承していくことは重要ではある。ただ、「求められる総長像」への記載は、「経営方針を継承し」というような強い表現ではなく、「経営方針を踏まえ」といった、次期総長が大学運営を行っていくにあたって自由度が増すような表現にすべきである。
- ・大学経営を行っていくにあたり、組織を発展させるための手段は社会状況の変化に伴って変更できる環境にすべきである。「求められる総長像」に細かく記載することにより次期総長がそれに縛られるべきではないことから、「求められる総長像」はシンプルな記載とすべきである。
- ・単純に「継承する」という表現よりも、前向きな表現として「発展させる」といった表現とし、次期総長が積極的な大学運営を行えるようにすべきである。
- ・リーダーとして当然に求められる能力を「求められる総長像」に記載する必要はないのではないか。
- ・「求められる総長像」の記載に基づいて評価指標を作成することから、リーダーとして当然に求められる資質・能力であっても「求められる総長像」に記載する必要があるのではないか。
- ・学内構成員へのアンケート調査により収集した様々な意見を参考にしつつ検討すべきであり、現時点では前回の総長選考の「求められる総長像」を基礎としたもので

良いのではないか。

- ・リーダーとして当然に求められる資質・能力は決まっていることから、そのような資質・能力に関する「求められる総長像」での記載は1項目にまとめるべきである。
- ・「求められる総長像」の構成は評価指標に対応することから、前回の総長選考の「求められる総長像」の構成と同様とすべきである。ただ、記載内容はシンプルにすべきである。
- ・学内構成員へのアンケート調査により収集した意見は、事務局においてある程度フィルタリングすべきである。
- ・学内構成員へのアンケート調査により収集した意見のうち、調査の目的に資さない意見はカウントする必要はないのではないか。
- ・学内構成員へのアンケート調査は、前回の総長選考における「求められる総長像」を示し、これに対する意見を収集すればよいのではないか。その際、大阪大学憲章も参考資料として提示すべきである。
- ・昨年に学内意向調査の投票資格者を検討した際に、投票資格が無い構成員からの意見を収集することを目的としてアンケート調査を実施することになったが、次回以降の課題として、学生からの意見を総長選考に反映するかを議論する必要があるのではないか。

次回は、令和6年7月30日に開催することとした。